

令和3年度

地方独立行政法人福岡市立病院機構に  
係る業務実績に関する評価結果報告

福 岡 市



報告第45号

地方独立行政法人福岡市立病院機構に係る業務実績に関する評価結果報告

地方独立行政法人法第28条第5項の規定により、地方独立行政法人福岡市立病院機構に係る令和3年度の業務の実績に関する評価結果について報告する。

令和4年9月5日

福岡市長 高 島 宗 一 郎

## 目 次

はじめに	1
第1項 全体評価	2
第2項 項目別評価	4
(1) 大項目評価	
第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置	4
第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置	6
第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置	7
第4 その他業務運営に関する重要事項を達成するためとるべき措置	8
(2) 小項目評価	
福岡市立病院機構の概要	13
全体的な状況	15
項目別の状況	22
第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置	
1 医療サービス	22
2 患者サービス	50
3 医療の質の向上	66
第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置	
1 自律性・機動性の高い運営管理体制の充実	84
2 事務部門の機能強化	86
3 働きがいのある職場環境づくり	88
4 法令遵守と公平性・透明性の確保	92
第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置	
1 持続可能な経営基盤の確立	94
2 収支改善	100
第4 その他業務運営に関する重要事項を達成するためとるべき措置	
1 福岡市立こども病院における医療機能の充実	116
2 福岡市民病院における経営改善の推進	120
第5 予算（人件費の見積りを含む。）、収支計画及び資金計画	124
第6 短期借入金の限度額	127
第7 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画	127
第8 剰余金の使途	127
第9 地方独立行政法人福岡市立病院機構の業務運営等に関する規則で定める業務運営に関する事項	128
〈参考資料〉	
○地方独立行政法人福岡市立病院機構 業務実績評価の方針	129
○地方独立行政法人福岡市立病院機構 年度業務実績評価実施要領	131

## はじめに

福岡市は、地方独立行政法人法第28条第1項の規定に基づき、地方独立行政法人福岡市立病院機構の令和3年度における業務実績の全体について総合的に評価を実施した。

評価に際しては、地方独立行政法人福岡市立病院機構評価委員会において、評価に関する意見を聴取し、平成30年6月22日に決定した「地方独立行政法人福岡市立病院機構業務実績評価の方針」及び「地方独立行政法人福岡市立病院機構年度業務実績評価実施要領」に基づき評価を行った。

地方独立行政法人福岡市立病院機構評価委員会 委員名簿

	氏名	職名
委員長	松浦 弘	福岡市医師会 副会長
副委員長	福田 治久	九州大学大学院医学研究院 准教授
委員	藤也 寸志	独立行政法人国立病院機構 九州がんセンター 院長
	大和 日美子	福岡県看護協会 会長
	行正 晴實	公認会計士

## 第1項 全体評価

### 評価結果及び判断理由

#### 〈評価結果〉

第4期中期目標期間の初年度である令和3年度の業務実績に関する評価については、小項目評価の結果を踏まえ、第1及び第4の大項目評価は「評価A」、第2及び第3は「評価B」となる。

この大項目評価の結果を踏まえ、両病院ともに、新型コロナウイルス感染症（以下「コロナ」という。）の感染拡大に対して、市立病院としての役割を果たしながら、病院機能を可能な限り維持しつつ、医療水準の更なる向上を目指し、医療機能の強化や経営の効率化等に取り組んでいることなどから、令和3年度の業務実績は、「中期計画の実現に向けて計画どおり進んでいる」と評価する。

#### 〈判断理由〉

福岡市立病院機構は、理事長を中心に、両病院と運営本部が一体となった運営体制を構築し、経営管理の徹底を図っている。

福岡市立こども病院においては、コロナ禍に対応するため、専用病床の追加確保やプレハブ簡易診察室の設置など診療機能を拡充するとともに、これまで培ってきた小児医療及び周産期医療の更なる充実を図るなど適切に対応している。

福岡市民病院においては、「福岡県新型コロナウイルス感染症重点医療機関」として、福岡市におけるコロナ対策の中核的な役割を果たしつつ、4疾病（がん、脳卒中、急性心筋梗塞及び糖尿病）への対応を中心に高度専門医療及び高度救急医療の更なる充実を図っている。

経営収支面では、コロナ禍の影響等による厳しい経営環境の中、両病院ともに高度医療の提供に着実に取り組むとともに、価格交渉の徹底等による費用削減にも取り組んでおり、また、コロナ対策に関する国や県からの補助金の交付などもあり、市立病院機構全体で17億2,700万円余の当期純利益を確保している。

### 全体評価にあたって考慮した内容

#### 〈特筆すべき取組〉

##### 〈福岡市立こども病院〉

- ・ 臨床研究や治験業務に積極的に取り組むなど、小児・周産期医療の発展に寄与する取組を行った。
- ・ フォーミュラーの策定や、薬剤師によるTPN（中心静脈栄養輸液）無菌調製実施の拡充を図るなど、医療の質の向上に努めた。

##### 〈福岡市民病院〉

- ・ コロナへの対応について、前年度に引き続き積極的に入院患者等を受け入れ、またJMAT（日本医師会災害医療チーム）の活動に協力し職員を派遣したほか、市の施策に積極的に協力し、公立病院としての役割を果たした。
- ・ コロナ対応に係る病院の取組状況や対応マニュアルなどを掲載した記録集を刊行し、関係機関に配布するなど、情報発信に努めた。

##### 〈両病院〉

- ・ 地域の医療機関との連携強化に努めた。
- ・ コロナの診療に積極的に取り組む中、コロナ以外の診療についても、医療資源の柔軟な活用等により、公立病院に求められる医療を途切れさせないように努めた。

#### 評価にあたっての意見、指摘等

- ・ デジタルトランスフォーメーション(DX)については、計画的に進める必要がある。
- ・ 認定資格取得者の育成は、タスクシェア・タスクシフティングの推進につながる。資格取得者の活躍の場の確保も考慮しながら積極的に進めてほしい。
- ・ 業務実績評価を行うに当たって、目標達成状況は重要な指標であることから、引き続き適切に目標設定を行い、その達成に努めてもらいたい。

## 第2項 項目別評価

### (1) 大項目評価

第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

#### ① 評価結果 A (計画以上に進んでいる)

S	A	B	C	D
特筆すべき進捗状況にある(特に認める)	計画以上に進んでいる(120%以上)	おおむね計画どおり進んでいる(100%以上 120%未満)	やや遅れている(100%未満)	重大な改善すべき事項がある(特に認める)
【 134 %】 (a 評価点(※ウエイト換算後の合計) / b 標準点 × 100) ※小数点以下切捨て				
両病院が、コロナ対策における市立病院としての役割を果たしながら、高度専門医療等における診療機能の強化・充実を図るとともに、地域包括ケアシステムに関わる役割を果たし地域医療への貢献や推進を積極的に行っている。多数の項目で目標を上回る成果を上げており、計画以上に進んでいると評価できる。				

#### ② 小項目評価の集計結果

項目		評価	ウエイト	ウエイト換算	
1 医療サービス	(1) 良質な医療の実践	こども病院	4	2	8
		市民病院	4	2	8
	(2) 地域医療への貢献と医療連携の推進	こども病院	4	2	8
		市民病院	3	2	6
	(3) 災害・感染症等への適切な対応	こども病院	4	2	8
		市民病院	5	2	10
2 患者サービス	(1) 患者サービスの向上	こども病院	3	2	6
		市民病院	3	2	6
	(2) 情報発信	こども病院	3	1	3
		市民病院	4	1	4
3 医療の質の向上	(1) 病院スタッフの計画的な確保と教育・研修	こども病院	3	2	6
		市民病院	3	2	6
	(2) 信頼される医療の実践	こども病院	4	2	8
		市民病院	4	2	8
合計			26	a 105	
標準点(※全ての小項目評価が3)			b 78		



③ 特筆すべき小項目評価等の判断理由

「1-(1) 良質な医療の実践 ア福岡市立こども病院」

○ 目標値はほぼ全ての項目で達成しており、また、移行期医療や入退院支援の拡充並びに「アレルギー看護外来(仮称)」の試行設置に取り組むなど、小児総合医療施設として求められる役割を果たすべく診療機能の充実を図っており、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。

「1-(1) 良質な医療の実践 イ福岡市民病院」

○ コロナの影響を受けて、入院患者数や病床利用率等で目標値を下回ったものの、手術件数は目標値のみならずコロナの影響が少ない前々年度も上回っており、入院単価も目標を大きく上回るなど、高度専門医療の充実に向け取り組んでいる。また、救急医療については搬送件数が目標値を下回ったものの、新たな取組により診療の強化を図ったことなどから、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。

「1-(2) 地域医療への貢献と医療連携の推進 ア福岡市立こども病院」

○ ほぼ全ての指標で目標値を上回っており、特にオープンカンファレンスについてはWebを積極的に活用するなどして目標値を大幅に上回る実績をあげ、また、地域包括ケアシステムに関する取組としては、退院前後の患者宅への訪問指導を行うなど、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。

「1-(3) 災害時等の迅速かつ的確な対応 ア福岡市立こども病院」

○ 特に、コロナへの対応については、病床の追加確保などにより入院・外来ともに体制を強化するなど、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。

「1-(3) 災害時等の迅速かつ的確な対応 イ福岡市民病院」

○ コロナ対応については、施設・設備の整備を進めるなど医療機能の充実を図ったほか、JMAT(日本医師会災害医療チーム)活動への協力としてコロナ療養ホテルへの医師等の派遣、市が実施する深夜帯のワクチン接種や転院支援調整事業への積極的な協力等、市立病院としての役割を果たしたことを積極的に評価し、年度計画を大幅に上回って実施していると判断されるため、「評価5」とする。

「2-(2) 情報発信 イ福岡市民病院」

○ 地域住民や中学校など幅広く情報発信に取り組んだことや、コロナ対応による知見を記録集の形で整理し、他の医療機関を始め幅広く周知を行うなど、市民・患者に開かれた病院づくりに積極的に取り組んだことから、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。

「3-(2) 信頼される医療の実践 ア福岡市立こども病院」

○ 一部の指標が目標値を若干下回ったものの、薬剤管理指導や栄養指導を積極的に実施し、特に薬剤管理指導については、薬剤師によるTPN(中心静脈栄養輸液)無菌調製の対象を拡充するなど、更なる安全性の向上に取り組んでおり、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。

「3-(2) 信頼される医療の実践 イ福岡市民病院」

○ 患者数の減少により薬剤管理指導件数及び栄養食事指導件数が目標値を下回ったものの、クリニカルパスの拡充や多職種連携によるがん患者等への指導管理に積極的に取り組んでおり、また、コロナなどの感染症に関する学術研究に取り組み、その成果を広く共有するなど、医療安全対策について年度計画を上回って実践していると判断されるため、「評価4」とする。

④ 評価にあたっての意見、指摘等

- ・ コロナに重点的に取り組む中で、一般病棟で 90%以上の病床稼働率を維持することは大変なことであり、評価できる。
- ・ 両病院とも地域医療への貢献に積極的に取り組んでおり、評価できる。更に取組を進めるのであれば、認定看護師や特定行為研修修了者をリソースとして積極的に地域に出していただくと、より質の高い医療の提供が実現できるのではないかと。
- ・ 福岡市立こども病院の逆紹介率が他の小児高度医療機関と比較して高い水準にあり、地域との医療連携の推進に努めていることが分かる。
- ・ 「2-(2) 情報発信」の項目について、運営上の重要性に鑑み、ウエイトの設定について見直しを検討しても良いのではないかと。

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

① 評価結果 B (おおむね計画どおり進んでいる)

S	A	B	C	D
特筆すべき進捗状況にある(特に認める)	計画以上に進んでいる(120%以上)	おおむね計画どおり進んでいる(100%以上 120%未満)	やや遅れている(100%未満)	重大な改善すべき事項がある(特に認める)
【 100 %】 (a 評価点(※ウエイト換算後の合計) / b 標準点 × 100) ※小数点以下切捨て				
地方独立行政法人の特長を生かした自律的・機動性の高い病院経営が行われている。働きがいのある職場環境づくりにも積極的に取り組むとともに、法令に基づき内部統制も適正に維持されていることから、おおむね計画どおり進んでいると評価できる。				

② 小項目評価の集計結果

項目	評価	ウエイト	ウエイト換算
1 自律性・機動性の高い運営管理体制の充実	3	1	3
2 事務部門の機能強化	3	1	3
3 働きがいのある職場環境づくり	3	1	3
4 法令遵守と公平性・透明性の確保	3	1	3
合計		4	a 12
標準点(※全ての小項目評価が3)		b 12	

③ 特筆すべき小項目評価等の判断理由

特になし

④ 評価にあたっての意見、指摘等

- ・ デジタルトランスフォーメーション(DX)については、単に業務の改善・効率化にとどまるのではなく、将来的な患者サービスや医療サービスの向上にいかに関わり付けていくかという点を含めて計画的に進める必要がある。
- ・ タスクシェアリングやタスクシフティングが進められている。今後は、特定行為研修修了者がより力を発揮できる環境づくりに取り組むとなお良いのではないか。
- ・ 「働きがいのある職場環境づくり」については、職員のワーク・ライフ・バランスを考慮し、多様な職員が働き続けられる環境づくりの視点が重要。
- ・ SDGs に寄与する取組については、業務実績報告の中で明示することも検討してみてはどうか。
- ・ 個人情報の取扱いについては、ひとたび事故が起きると大きなリスクとなる課題である。研修の受講などの対策は、できるだけ広く職員全体が参加するよう、声掛けなどを徹底することがまずは必要では。
- ・ 「2 事務部門の機能強化」や「3 働きがいのある職場環境づくり」の項目について、運営上の重要性に鑑み、ウエイトの設定について見直しを検討しても良いのではないか。

第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置

① 評価結果 B（おおむね計画どおり進んでいる）

S	A	B	C	D
特筆すべき進捗状況にある（特に認める）	計画以上に進んでいる(120%以上)	おおむね計画どおり進んでいる(100%以上 120%未満)	やや遅れている(100%未満)	重大な改善すべき事項がある（特に認める）
【 100 %】 (a 評価点(※ウエイト換算後の合計) / b 標準点 × 100) ※小数点以下切捨て				
両病院とも増収対策や費用削減に取り組んでおり、また、コロナ対策の取組による国や県からの補助金が交付された結果、当期純利益を確保しているため、おおむね計画どおり進んでいると評価できる。				

② 小項目評価の集計結果

項 目		評価	ウエイト	ウエイト換算	
1 持続可能な経営基盤の確立	(1) 経営基盤の安定化と運営費負担金の適正化	こども病院	3	2	6
		市民病院	3	2	6
	(2) 投資財源の確保		3	1	3
2 収支改善	(1) 収益確保	こども病院	3	2	6
		市民病院	3	2	6
	(2) 費用削減	こども病院	3	2	6
		市民病院	3	2	6

合計		11	a 39
標準点(※全ての小項目評価が3)		b 39	

③ 特筆すべき小項目評価等の判断理由

特になし。

④ 評価にあたっての意見、指摘等

- ・ 各指標を評価するに当たっては、類似病院などのベンチマークとの比較を行うと、よりの確かな評価につながるものと思われる。

第4 その他業務運営に関する重要事項を達成するためとるべき措置

① 評価結果 A (計画以上に進んでいる)

S	A	B	C	D
特筆すべき進捗状況にある(特に認める)	計画以上に進んでいる(120%以上)	おおむね計画どおり進んでいる(100%以上 120%未満)	やや遅れている(100%未満)	重大な改善すべき事項がある(特に認める)
【 150 %】 (a 評価点(※ウエイト換算後の合計) / b 標準点 × 100) ※小数点以下切捨て				
福岡市立こども病院においては、医療機能の充実を図るとともに、臨床研究や治験業務などで良好な成果を挙げていること、また、福岡市民病院においては、医療機能の充実を図るとともに、医療資源を効率的に活用し、福岡市におけるコロナ対策の中核的な役割を果たすなど、計画以上に進んでいると評価できる。				

② 小項目評価の集計結果

項目	評価	ウエイト	ウエイト換算
1 福岡市立こども病院における医療機能の充実	5	2	10
2 福岡市民病院における経営改善の推進	4	2	8
合計		4	a 18
標準点(※全ての小項目評価が3)		b 12	

③ 特筆すべき小項目評価等の判断理由

- 「1 福岡市立こども病院における医療機能の充実」
- 臨床研究や治験にも積極的に取り組み、特に川崎病に関する研究論文については学会の権威ある賞を受賞するとともに、全国有数の評価を受けるなど、小児・周産期医療の発展に貢献したことを積極的に評価し、年度計画を大幅に上回って実施していると判断されるため、「評価5」とする。
- 「2 福岡市民病院における経営改善の推進」
- コロナ対応を積極的に行う一方で、地域の医療機関との連携強化や医療資源の効率的活

用を図って通常医療を途切れさせず、また、高度医療の実践により診療単価の向上を果たすなど、診療機能の充実及び経営改善に努めている。収支面では、こうした取組の積み重ねやコロナ対策に伴う国や県からの補助金交付により、経常収支における黒字を達成するなど、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。

④ 評価にあたっての意見、指摘等

- ・ 福岡市立こども病院の臨床研究は、素晴らしい業績を残している。
- ・ 研究論文の採択件数は研究の質のエビデンスとして重要であり、評価に値する。
- ・ 福岡市民病院は医業収支が悪化しているとはいえ、コロナ禍という特殊な状況の下で、経常黒字を達成しており、評価に値する。
- ・ 経営改善について、コロナ禍に伴い経常収支の状況を重視した評価となっているが、医業収支向上の視点も重要。

- (2) 小項目評価  
別紙のとおり